

小学校
3年/社会

スーパーマーケットではたらく人

～ICTを活用した「活用する力」を培う授業～

実践者 栗原市立大岡小学校 遠藤 麻由美

1 学習の概要

単元名

人々のしごととわたしたちの暮らし
～スーパーマーケットではたらく人～

本時の目標

スーパーマーケットにはお客さんのための様々な工夫があることが分かる。
スーパーマーケットは、消費者のニーズや願いに合わせて工夫していることが分かる。

本時の学習

学習活動

- 1 県名フラッシュで、東北地方の県の名前や形に親しむ。
- 2 学習課題をつかむ
- 3 野菜売り場などの写真から、スーパーマーケットがお客さんのために工夫しているものを見つける。
- 4 見つけたことがうちの人のスーパーに対する願いのどれにつながるのか話し合い表にまとめる。
- 5 スーパーマーケットの工夫は、うちの人々の願いに結び付いていることをまとめる。

本時活用機器・コンテンツ

- ・電子黒板（プラズマ型体）
- ・実物投影機
- ・自作コンテンツ(教科書拡大図)
- ・フラッシュ型教材 (PowerPoint)

補助資料等

指導上の留意点

- 子ども自身の手で楽しく行うことができるように指導しておく。
- 見学に行ったときのことを思い起こすとともに、自分の経験からも想起させていく。
- 画面の写真に見つけたことを書き込み、スーパーにはたくさんのふしぎや工夫があることに気づかせる。
- 発表したものを短冊に書き、掲示するとともに、分類に活用する。
- 電子黒板上の児童の考えを書き込んだ写真を並べて掲示し、家の人々の願いのどれにつながるのか考えさせる。



2 学習のポイント

・フラッシュ型教材の活用

ゲーム感覚で楽しくフラッシュを行うことにより、既習の学習内容のより確かな理解を促すと共に、学習への意欲を喚起させることができる。

・写真の拡大提示

写真を拡大提示することにより、児童の視点を集中させると共に、児童の気づきをより促すことができる。

・書き込みによる思考の可能化

写真に書き込みを行うことによって、児童の思考を可視化させるとともに、共有化させることができる。

・電子黒板が学びの場に

写真への書き込みをし合うことによって、児童の考えを積み重ねることができ、電子黒板上が学びの場になる。

・書く、保存する、並べる（比べる）

児童の考えが書き込まれた写真を保存しておけば、いつでも引き出し並べたり比べたりすることができる。



3 参観者の声

・事後のワークショップより

写真を拡大提示することにより、児童の視点を一点に集め、集中して学習に取り組むことができたことが分かった。

一枚の写真の上に、子どもたちの様々な考えが書き込まれ、いつのまにかそこには、本時に学習するべき内容が詰め込まれていた。

「拡大提示する」「書き込む」「並べる」「保存する」等の電子黒板の機能を、大変有効に活用していた

